

## ～ 競 技 方 法 ～

- 1) 選手は4名とし、補欠は2名まで登録可能とする。選手交代はセット毎に自由に行うことができる。ゲームは各チーム4個のストーンを使用する。
- 2) コートは20m×3mのテープを氷上に区画し、送球マットは中央に置く。
- 3) 標的はコート内10m～20m以内に送球位置から投げる。標的は2回まで投げるができるが、2回とも失敗したときは先攻権が移動する。
- 4) 標的及びストーンは腰より高い位置から送球してはならない。即ちアンダースローで滑らし、送球後倒れたストーンはセット終了までそのままの状態に置く。
- 5) ストーンの形や重さ等による不公平を防ぐため、セットごとに色分けしたストーンを交換する。1セット目に赤を使用したチームは2セット目は青を使用する。
- 6) 標的にストーンを最も近づけたチームは相手方が更に近づけるかストーンを使い終わるまで送球する。
- 7) 双方のストーンが標的に対して同等距離になった場合は、後に近づけたチームが続けて送球することとする。また、セット終了後同等距離の場合は、それぞれのチームに各1点を与える。
- 8) ゲーム中、標的をコート外にはじき飛ばした場合、そのセットは終了とし相手チームに2点又は相手チームの残っているストーンの数いずれか多い方が得点として与えられる。
- 9) 得点の計算は、両チームのストーンをすべて送球し終わった後、標的に最も近いストーンのチームが相手チームの標的に一番近いものよりすべて得点となる。(1個につき1点とする)
- 10) セットに勝ったチームは引き続き先攻権を得、ゲームを続ける。
- 11) 9点を先取したチームを勝ちとしゲームを終了する。(終了得点はゲームに応じて決めても良い)

### (例)

セット数	ストーンの位置	得点の計算方法
第1セット		○チームは◎チームよりも標的●に1個近いため ◎チームが1点
第2セット		◎チームは○チームよりも標的●に3個近いため ◎チームが3点

上記の例では…

第2セット終了までの得点は1対3で◎チームが勝っていることとなります。このまま、セットを繰り返し、先に9点を取ったチームが勝ちとなりますが、時間制限の場合は、そのセットも含めた得点にて勝敗を決定します。